

2018/1/19

うときゅういっきの漢字夜話（ことば夜話）

敢えて間違う、内憂外「観」（患）



「近頃、寒さが身に染みるようになったよ。どうしたのかな？去年まではそんなことなかったのに。脂肪が落ちて体重が減ったという事もないのに。なぜだろう？」

とムスコが尋ねてきました。

「それはいいことだ。多分外に目や感覚が向くようになったからだよ。嬉しい変化。いい傾向だ」

と自分は答えました。

それを聞いて、ムスコは怪訝な顔をしました。

「今まで、内ばかりを見ていたろ？自分の内面ばかり。

それは、丁度、庭先に立って自分の家ばかりを見ているのと同じで、表通りに背を向けて立っていることになる。

外の通りをどんな人が、どんな仕草をしながら歩いているか？とか、近所の家の様子はどうか？とか、犬が通ったのか？それとも猫が通ったのか？それすら、わからなかったろ？

情報が何も入ってこなかったろうし、人のおしゃべりもお話もなかったはずだ。誰とも交わることなく、ずっと一人の世界で生きていたんじゃないのかな？

寒さも感じなかったはずだ。

目線や感覚がうちにばかり向いていて、手足の皮膚にまでとどかなかったからだろう。

だから、寒さを感じるようになったのは、目が内から外に向かい始めた証拠なんだろうと思うよ。

それで、寒く感じるのは、とってもいいことだと言った訳。

内憂外「患」ならず、内憂外「観」と書いて、

自分の内側ばかり見て憂いているよりも、外を観た方が、世界が見えるし、人ともつながって、自分の立ち位置が、内を見ているときより、却って逆によく見えることになるから、その方がずっといいんだよというお話。

自分を知りたいなら、まず、外を観なさいってことかな？

アンダスタン？マイ・サン。

敢えて間違う四字熟語、間違い探しクイズでした。」

ムスコは、黙っていましたが、顔には

「オー・マイ・ガッ！！」

と書いてあるように思えました。

そのせいか、ムスコはその翌日以降、今まで一度も目にしたことのない、食卓のちょっとした汚れの拭き取りや、洗面所のタオルの取り換えなど、僕すら気づかず見落としていることを、自ら気が付いて、自分から先にするようになりました。

一文字替えて、状況、内容、天地一変。

めでたし、めでたし、でしたと、サッさ。